

# すめらみくにの 乙女たち

鈴木 ひで



# 目次

一	案内地図	2	二十六	カルチャーシヨック	52
二	入学	4	二十七	皇居前広場整地奉仕作業	54
三	登校	6	二十八	もやしの味噌汁	56
四	昼食時間	8	二十九	精神力	58
五	仲よし	10	三十	体力検定	60
六	校則の長い髪	12	三十一	空腹	62
七	乙女心	14	三十二	木炭車	64
八	ステール・フライバー	16	三十三	耐寒心身鍛練	66
九	お掃除	18	三十四	関西旅行	68
十	下校	20	三十五	食糧自給	70
十一	寄宿生	22	三十六	千人針	72
十二	寒い冬	24	三十七	愛国行進曲	74
十三	作法室	26	三十八	あこがれ	76
十四	食糧増産と大政翼賛会	28	三十九	スローガン	78
十五	男女交際と勤労奉仕	30	四十	別れ	80
十六	学期末試験	32	四十一	奉仕作業	82
十七	兵隊さん送り	34	四十二	女子挺身隊寮	84
十八	岩櫃山の苗圃	36	四十三	天突き体操	86
十九	紀元二六〇〇年	38	四十四	作業	88
二十	臣民教育	40	四十五	工場疎開	90
二十一	配給制度	42	四十六	輸血	92
二十二	歩兵第一五連隊	44	四十七	新型爆弾投下	94
二十三	おさげ髪	46	四十八	終戦	96
二十四	夏休みの心得	48		あとがき	98
二十五	節約	50			

# 一 案内地图



## 二 入学

六人姉妹の末っ子の私は、友達の真新しい制服や、靴箱に並んでいる革靴が眩しく羨ましかったのです。それは、姉達からお下がりのセーラー服は色褪せ、革靴の踵はすり減っていましたから。

「本当に女学生になったんかね？」、

「ねえちゃんのお服を借りて着てるんかい」と言う近所のおばさん達の言葉は、私の自尊心をいたく傷つけました。

昭和14年(1939) 57名 県立吾女へ入学。

廊下で 上級生に 会えば 立ち止って  
頭を 下げなければなりません。

礼儀知らずな  
生意気な  
新入生と……  
言われるから。



### 三 登校

上級生の足並みに合わせ、右脚、左脚と正確に姿勢を正して学校迄四キロの砂利道を、時には、合わなくなった歩調を整え直しての登校です。

神社の鳥居の前では、必ず、立ち止まって一斉に最敬礼をしました。

七時三十分始業ベルの十分前には、教室に入る事となっていました。

砂利道を上級生のあとについて登校。神社の前では揃って最敬礼。  
靴底に打ってある釘の音がまるで馬が歩いているみたい。

